

令和3年9月30日

部局等の長 様

総務部長

令和4年度京丹後市予算編成方針について（依命通知）

令和4年度予算の編成方針について、市予算規則第4条の規定に基づき、市長の命により別紙のとおり通知する。

令和4年度京丹後市予算編成方針

■本市を取り巻く環境

国においては、「経済財政運営と改革の基本方針 2021」(令和3年6月18日閣議決定)が示されたとおり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に引き続き万全を期す中で、雇用の確保と事業の継続、生活の下支えのための重点的・効果的な支援策を講じ国民の命と暮らしを守り抜き、さらにグリーン、デジタルなど成長分野への民間需要を大胆に喚起しながら、人材への投資などを通じ、「成長と雇用の好循環」の実現を目指すとしている。

京都府においては、令和4年度予算編成方針はまだ示されていないが、知事選挙を控え骨格型の予算を編成されると想定している。こうした中においても、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、「京都府総合計画(京都夢実現プラン)」に掲げられた施策の方向性は継続されるものと考えている。

本市の状況は、歳入においては、新型コロナウイルスの影響もあり市税などは減少傾向にある中、依存財源に大きく頼った財源構造であることから、自主財源の確保を図るため、ふるさと納税を推進しているところである。他方、歳出においては、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を最優先に取り組むことをはじめ、施設の維持管理経費や特別会計、企業会計への繰出金等が増加傾向にあるものの、第2次京丹後市総合計画の基本計画に沿って各施策を推進していく必要がある。

■ 令和4年度予算編成の基本方針

令和4年度予算は、第2次京丹後市総合計画・基本計画の4つの重点プロジェクトを中心に置きつつ、SDGsの取組を踏まえる中、多彩な産業や人材、自然環境、食資源、歴史・文化といった本市の強み、豊かさを活かし、京丹後にあふれる可能性の実現に向け、各施策を市民の声を起点に着実に取り組むとともに、ふるさと納税による自主財源の確保や部局間の横連携をしっかりと行うなど、持続可能な行財政運営を前提に、次の4つの方針に沿った予算を編成することとしている。

1. 新型コロナウイルス感染症への万全の対応の推進

新型コロナウイルス感染症から、市民の雇用の維持と事業者の事業継続を確保することで、市民の暮らしをしっかりと守り支えると同時に、ウィズコロナにおける各取組を引き続き推進すること。加えて、アフターコロナを見据えた取組についても推進すること。

2. 総合計画・基本計画に基づくまちづくり

第2次京丹後市総合計画・基本計画に掲げた「かせぐ」、「はぐくむ」、「ささえる」、「つなぐ」の4つの重点プロジェクトを中心にしつつ、SDGsの取組の視点も大切にしながら施策に取り組むとともに、脱炭素社会やDXなどの取組も推進すること。

3. 市民起点の市政運営と新たな事業へのチャレンジ

市民のニーズや社会的な要請の変化に迅速に対応する必要があるとの観点から、市民の声を起点に失敗を恐れず柔軟な発想により新たな取組にチャレンジする姿勢を大切に、予算編成に臨むこと。

特に、人口減少や少子高齢化などの課題克服に向け、担当部局の枠を超えて若手職員の柔軟で斬新な発想を積極的に取り入れ、果敢に新たな取組にチャレンジすること。

4. 持続可能な行財政運営の推進

厳しい財政状況の中にあっても、市民生活を将来にわたって支え、地域経済を発展させていくために、歳入については、ふるさと納税による自主財源の確保をはじめ、国府の補助制度等について、できる限りの情報収集を行い、財源確保をするとともに、合併特例事業債などの地方債をはじめ、様々な有利な財源について、積極的に活用すること。

また、歳出については、事務事業のこれまでの実績や効果を見据えた事務事業の見直しのほか、市役所の組織体制や人員体制等を含め、全ての項目等について十分精査し、必要な見直しを進めること。